

週刊 **タバコの正体**

重症化リスク要因別の
死亡率

慢性腎臓病	14.00%
慢性閉塞性肺疾患 (COPD)	10.20
がん	8.35
免疫抑制	7.54
糖尿病	4.76
高血圧	4.32
脂質異常症	3.30
肥満	1.55
喫煙	0.99

重症化リスクが
一つもない人の
死亡率は 0.41%

※厚生労働省の資料に基づく

読売新聞オンラインニュース医療・健康サイトから

COPD患者さんの喫煙歴

COPD患者さんの
約90%はタバコを
吸っていました!



日本呼吸器学会COPDガイドライン第5版作成委員会(編).
COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン第5版2018.
メディカルレビュー社, p18

COPD-jp.com サイトから

新型コロナウイルス(COVID-19)が人間社会に登場してから約1年半が経過しました。日本における今までの感染者は約170万人、死者は約1万8千人にのぼっています。この状況に対応するため厚生労働省では感染者の情報を把握管理する仕組み(HER-SYS)を整備して治療・療養の支援を行っています。

左の表は、そのシステムで収集された情報をもとに、感染すると重症化するとみられる要因別の死亡率をまとめたものです。重症化リスクを一つも持っていない人で死亡する人は0.41%だったそうです。だから、たとえば喫煙習慣がある人の0.99%は、その2倍以上もあり死亡率は2倍高いと言えます。

そして、注目すべきは死亡率が10%を超えている慢性閉塞性肺疾患(COPD)です。肺が慢性的に炎症をおこし呼吸機能が低下している病気ですが、じつはその原因のほとんどが喫煙

なのです。左図にあるようにCOPD患者の90%は喫煙歴があるとされています。つまり、タバコを吸っていると新型コロナウイルスに感染した場合の死亡率がかなり高い訳です。

“With コロナ”と言われる現代で生活するには、ますますタバコに手を出すべきではなくなっています。言い換えればこれからは“Without タバコ”時代だと思いませんか。

産業デザイン科 奥田 恭久